

江田島市教育委員会会議録

令和5年8月21日（月）令和5年第9回教育委員会会議定例会を能美市民センター2階会議室において開催しました。

1 開会及び閉会に関する事項

開会 午前 10時00分
閉会 午前 11時58分

2 出席者（4名）

教育長	岡田 學
教育長職務代理者	三島 雅司
委員	小宇根 康典
委員	長坂 睦子

3 出席説明員

学校教育課長	黒小 大介
生涯学習課長	江郷 洋子
学校給食共同調理場総括場長	仁井 雄一
大柿自然環境体験学習交流館長	西原 直久
学校教育課主任指導主事	尾崎 弓枝

4 事務局

学校教育課 課長補佐兼総務係長 濱中 健三

5 傍聴人

4人

6 議事日程

- (1) 教育長報告
- (2) 会議録署名委員の指名
- (3) 議案第43号 令和6年度使用教科用図書（小学校）の採択について
- (4) 議案第44号 令和6年度使用教科用図書（小・中学校特別支援学級）の採択について
- (5) 議案第45号 江田島市市民センター等設置及び管理条例の一部を改正する条例案について
- (6) 議案第46号 令和5年度江田島市一般会計補正予算（第4号）（教育委員会関係分）について

(7) 承認第10号 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免について

(8) その他

7 議事の概要

○ 教育長

ただいまから、第9回江田島市教育委員会会議、定例会を開会します。

ただ今の出席委員は4名（1名欠）です。定足数（3名）に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

審議に入る前に、非公開議案について協議します。

日程第4議案第44号については、本市の小・中学校が、いずれも小規模であることから、個人が特定されるおそれがあること。

また、日程第5議案第45号と日程第6議案第46号については、令和5年江田島市議会9月定例会に提案される予定の、成案となる前の案件であること。

さらに、日程第7承認第10号については、人事に関する案件であることから、公開しないで審議することが適当ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

(全員異議なし)

○ 教育長

それでは、お諮りいたします。

議案第44号「令和6年度使用教科用図書（小・中学校特別支援学級）の採択について」、議案第45号「江田島市市民センター等設置及び管理条例の一部を改正する条例案について」、議案第46号「令和5年度江田島市一般会計補正予算（第4号）（教育委員会関係分）について」、承認第10号「教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免について」は、公開しないことに賛成の方の挙手をお願いいたします。

(全員挙手)

○ 教育長

挙手全員と認めます。

したがって、議案第44号、議案第45号、議案第46号、承認第10号につきましては、公開しないで審議することに決定いたしました。

○ 教育長

日程第1、「教育長報告」を行います。

議案書、2ページをお開きください。

「教育長報告」を行います。

(省 略)

以上で、教育長報告を終わります。

○ 教育長

日程第2、「会議録署名委員の指名」は、会議規則第15条第2項の規定により、あらかじめ署名委員の順番を決めていますので、今回は、三島委員にお願いいたします。

○ 教育長

議案第43号「令和6年度使用教科用図書（小学校）の採択について」を議題とします。

事務局から、説明をお願いします。

○ 教育部長

ただ今上程されました議案第43号について説明します。

議案書、3ページをお願いします。

提案理由です。

令和6年度に市立小学校で使用する教科用図書を採択する必要があるため、江田島市教育長に対する事務委任規則第2条第9号の規定により、委員会の議決を求めるものです。

内容については、学校教育課長から、説明いたします。

○ 学校教育課長

議案第43号「令和6年度使用教科用図書（小学校）の採択について」、説明いたします。

まず、教科用図書の採択については、前回の教育委員会会議で説明いたしましたが、調査員が教科部会に分かれ、すべての教科用図書について調査研究を行いました。

調査員は、調査研究の結果をまとめた資料を作成しました。

続いて、選定委員会は、8月2日（水）に開催されました。選定委員会では、調査員が作成した「調査研究報告書」をもとに、各教科部会の代表者が説明し、質疑を行いました。

その後、選定委員による審議をいたしました。その審議結果を選定委員会が答申としてまとめ、江田島市教育委員会へ8月9日（水）に提出されました。それが、本日、議案43号の付属資料として別紙配付しております「令和6年度に市立小学校で使用する教科用図書の選定について（答申）」でございます。

元の資料にお戻りください。

選定委員会における審議の結果、4ページに示しておりますように「令和6年度に市立小学校で使用する教科用図書の選定結果一覧」の発行者の教科用図書が選定されました。

それでは、種目ごとに選定理由について説明いたします。

選定理由につきましては、議案43号付属資料として別紙配付しております「令和6年度に市立小学校で使用する教科用図書の選定について（答申）」で説明させていただきますので、答申の1ページ目をお開きください。

国語でございます。

3つの発行者のうち、選定委員会では東京書籍、これを「東書」として示しておりますが、「東書」を選定しております。

選定理由としましては、大きく3点ございますが、そのうち1点について説明します。

2つ目の○をご覧ください。

単元や資料等の配列については、「読むこと」の単元と「書くこと」の単元を関連付けた配列を第2学年以上において、各学年3か所設けている。「読むこと」の単元と「書くこと」の単元の間学習を関連付ける「情報」の小単元を配置し、情報活用能力を高めることができる。という点です。

実際の教科書で説明させていただきます。

お手元においております東京書籍の「国語」6年の46ページをお開きください。

まず「読むこと」の単元として「イースター島にはなぜ森林がないのか」という説明文があります。そこに「言葉の力」として「論のすすめ方をとらえる」と意識して学ぶ事項を示しています。続いて、60ページをお開きください。「情報のとびら」という小単元で、説明文「イースター島にはなぜ森林がないのか」の論のすすめ方の中で登場した「原因と結果」という点について焦点を絞って知識の定着を図っています。

そして62ページをご覧ください。

続く「書くこと」の単元では、この原因と結果という学びを活用して「いざというときのために」という文章を書く単元を設定しています。「読むこと」の単元と「書くこと」の単元を小単元「情報のとびら」でつなぎ、指導の効果を高めるような配列の工夫があります。このような配列が各学年3カ所あります。これは他の教科書にはない特色となります。

これらの理由により、「東書」が最もふさわしいとして選定されました。

続いて、書写でございます。

3つの発行者のうち、「東書」の教科書を選定しております。

選定理由としましては、大きく3点ございますが、そのうち3点目に示しておりますことについて説明させていただきます。

単元の配列・分量については、「書くときの動き」の内容で、1文字の点画のつながりを意識した後に、文字と文字もつながりがあることを学習できるようになっている。

さらには、その文字のつながりを生かして書く速さを場面によって変えていくことを学ぶ展開となっており、スモールステップで学習が進められるため、基礎・基本の定着につながるという点に特徴があります。

実際の教科書で説明させていただきます。

お手元においております東京書籍の「書写」6年の10ページをお開きください。

まずここで、1文字の点画のつながりを意識します。続く、12ページでは、文字と文字もつながりがあることを学習できるようになっております。そして14ページでは、その文字のつながりを生かして、書く速さを場面によって変えていくことを学ぶ展開となっており、スモールステップで学習が進められております。

これは他の教科書にはない配列です。

これらの特徴的な理由により、「東書」が最もふさわしいものとして選定されました。続いて、社会でございます。

3つの発行者のうち、選定委員会では「東書」を選定しております。

選定理由としましては、大きく3点ございますが、そのうち2点について説明します。

1点目は、主体的に学習に取り組むための学習展開として、第6学年では、「政治・国際編」の最初の単元の中程に、見開きで「社会科の学習の進め方」のページを設け、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習の進め方を示している点です。

実際の教科書で説明させていただきます。

お手元においております東京書籍6年「新しい社会 政治国際編」の12ページをお開きください。

ご覧のように、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習の進め方が具体的にイラストや写真を用いて示されており、主体的に学ぶ際の参考とすることが出来ます。また、25ページをご覧ください。単元ごとに「つかむ」の後に「学習問題」を示しています。

そして続くページでは、見開きページごとに問いを提示しながら「調べる」学習を進め、学習問題について調べて分かったことを整理し、「まとめる」というページを設けるなど、「学習の進め方」の手法を本文に分かり易く反映させております。

2点目は、単元や資料等の配列、分量についてです。第6学年では、政治・国際編、歴史編の2分冊となっており、各分野での違いと関連を意識しやすくなっております。

これは「東書」だけの特徴です。

これらの理由により、「東書」が最もふさわしいものとして選定されました。

続いて、地図でございます。2つの発行者のうち、選定委員会では帝国書院「帝国」を選定しております。

選定理由としましては、大きく3点ございますが、そのうち2つ目に示しております点について説明します。

主体的な学習に取り組む構成上の工夫については、「日本の自然災害と防災(2)」では、災害に備える国や地域の取組や、防災マップづくりの手順を示し、体験的な学習を例示しているという点です。

実際の地図帳で説明させていただきます。

お手元にあります帝国書院「小学生の地図帳」の102ページをお開きください。

ご覧のように災害に備える国や地域の取組や、防災マップづくりの手順を示し、体験的な学習を例示しています。

これらの理由により、「帝国」が最もふさわしいとして選定されました。

続いて算数でございます。

6つの発行者のうち、選定委員会では学校図書「学図」を選定しております。

選定理由としましては、大きく3点ございますが、そのうち2点について説明します。

1点目は、単元の目標を達成するための工夫としては、第4学年の「数と計算」の仮商修正の仕方の扱いは、「商の見当をつけて計算し、かりの商を1回小さくする。答えのたしかめをする。」としてあり、かりの商が大きすぎたときは、かりの商を小さくしていくことについて、手順をおって示している。という点です。

実際の教科書で説明させていただきます。お手元においております学校図書「算数4年」下の92ページをお開きください。96÷33という問題があります。①商の見当をつけて計算すると大きくなりすぎるので、かりの商を1回1小さくします。そのうえで、計算を終えたのち、答えのたしかめをするように示しています。その後、6問練習をします。次の問題は2回商を小さくする問題を丁寧に指導しています。その後、練習問題となっています。

そして、93ページのまとめとして、「かりの商が大きすぎたとき、かりの商を1ずつ小さくしていき、正しい商を見つけます。」と示されています。そのあと、練習として、商の見当をつけて計算しましょう。また、答えのたしかめもしましょう。と6問あります。「仮商修正の仕方」を理解し、2けたのわり算の計算ができるようになるという単元の目標を達成するための工夫として、丁寧に手順をおって指導している点が「学図」の特徴です。

その他にも、数学的な考えを用いて自分の考えを説明する工夫として、第4学年の「図形の面積」のL字型の図形の面積の求め方について、形を想起しやすく、操作もしやすい方眼紙に図形が掲載されているとの理由も挙げられております。

これは6社のうち、東書の他、3社でも見られた特色です。

これらの特色を踏まえ、総合的に判断した結果、「学図」が最もふさわしいとして選定されました。

続いて、理科でございます。

5つの発行者のうち、選定委員会では「啓林館」を選定しております。

選定理由としましては、大きく3点ございますが、そのうち2点について説明します。

1点目は、2つ目の○にあります、社会の変化に伴う課題への対応として、プログラミングの体験に関する内容について、第6学年の「発電と電気の利用」では、シミュレーションしたり、実際に体験したりするプログラミング体験例が紹介されている。身近な実生活における例を示し、プログラミングの構造を「条件と動作」で考えさせており、児童に理解させやすい。という点です。

実際の教科書で説明させていただきます。

お手元においております啓林館「わくわく理科6」の182、183ページをお開きください。

身近な明るさセンサーと人感センサーを例に挙げ、プログラミングの構造を「条件」と「動作」で考えさせています。また184ページには、フローチャートも示されてお

り、充実した内容となっております。

続いて、2点目です。

内容の表現・表記の工夫としては、二次元コードが付いていて、ストリートビューのような視点移動で地層などの写真が見られるようになっている。という点です。

教科書125ページをお開きください。

大地のつくりと変化のページですが、二次元コードが示されてインターネットに接続し、より詳しく見られるようになっております。これは他の会社も充実しているところですが、ストリートビューのような360度、自分が見たい角度や場所からの視点移動で地層などの写真が見られるのは「啓林館」の特色です。

これらの理由により「啓林館」が最もふさわしいとして選定されました。

続いて、生活でございます。7つの発行者のうち、選定委員会では「東書」を選定しております。

選定理由としましては、大きく3点ございますが、そのうち、2点について説明させていただきます。

2つ目の○をご覧ください。

幼児期の教育との接続について「どきどき わくわく 1ねんせい」では、全13ページで構成され、「つながる ひろがる」で、幼児期の教育との円滑な接続に関する内容を示している。また、各ページ下段に、保護者向けの説明を掲載しているという点です。

実際の教科書で説明させていただきます。

東京書籍の「あたらしいせいかつ上」の1ページをお開きください。

ここからが「どきどきわくわく1ねんせい」となります。

各社とも写真やイラストで具体的な活動を例示しているのですが、中でも、東書は、4ページの「きょうしつ」、6ページの「ともだち」、8ページの「がっこう」と関わる場所を徐々に広げるように構成し、各ページの下段に、幼児期の終わりまでに育ててほしい姿の説明を保護者向けにも掲載しています。

2点目は、本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用について、上巻「はなをさかせよう」では、植物の成長や変化への気付きを自覚できるよう、段々と紙面が広がる構成になっている。点です。

教科書28ページ、30ページ、32ページを順にお開きください。

種であった植物が双葉を出し、つぼみを付けるような変化が分かりやすい工夫がなされています。

これらの理由により、「東書」が最もふさわしいとして選定されました。

続いて、音楽でございます。

2つの発行者のうち、選定委員会では教育出版「教出」を選定しております。

選定理由としましては、大きく3点ございますが、そのうち1点について説明させていただきます。

歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫として、第4学年の歌唱教材「ゆかいに歩

けば」では、スタックートの歌い方について、「かたを楽にして、おなかに手を当てながら歌ってみよう」や『ゆかいに歩けば』の前半の部分をピ、ポ、マなどの言葉で、歌ってみよう。」と歌い方を示している。また、児童の写真で、スタックートで歌う時の目や口の開き方、腹部の様子を示しており、歌うときに、表情をまねることができるという点です。

実際の教科書で説明させていただきます。

教育出版の「音楽のおくりもの4」の31ページをお開きください。児童の写真で、スタックートで歌う時の目や口の開き方、腹部の様子を示しているというのがこれに当たり、このような写真を見ながら、表情をまねることができます。

これらの理由により、「教出」が最もふさわしいとして選定されました。

続いて、図画工作でございます。

2つの発行者のうち、選定委員会では日本文教出版「日文」を選定しております。

選定理由としましては、大きく3点ございますが、そのうち1点について説明させていただきます。

身近な作品・我が国や諸外国の親しみのある美術作品等や生活の中の造形の取扱いについては、各学年に「教科書美術館」を設定し、作家作品の詳細まで鑑賞できるように大きく掲載している。また、第3～6学年は「広がる図工」のページで、作者の表現に込めた思いや美術館とのつながり等を伝えている。さらに、各学年の巻末に「アート・カードを楽しもう」を設けており、付属のアート・カードを使い鑑賞のポイントを学んだり、諸外国の美術作品に触れたりすることができるような工夫をしているという点です。

実際の教科書で説明させていただきます。

日本文教出版の「図画工作5・6年下」の68ページをお開きください。

このページが「アートカードを楽しもう」です。これには、二次元コードで、アートを使ったゲームもついています。直接、作家の作品を鑑賞する機会が少ない本市の実情を考えますと、「アート・カードを楽しもう」で付属のカードを使用しながら、国内外の多くの作品と対話しやすい構成になっている日文の方が興味・関心がわくとのことでした。

これらの理由により、「日文」が最もふさわしいとして選定されました。

続いて、家庭でございます。

2つの発行者のうち、選定委員会では「東書」を選定しております。

選定理由としましては、大きく3点ございますが、そのうち1点について説明させていただきます。3つ目の○をご覧ください。

巻末に、実習に役立つ写真が実寸大に拡大してあり、実際に手を乗せて、真似をしながら包丁の使い方や玉結びの仕方、修理の仕方等、習得することができる。という点です。

実際の教科書で説明させていただきます。「東書」の「新しい家庭5・6」の136ページからをご覧ください。「包丁で材料を切る」、また141ページには、「針と布を

持ってぬう」などを示しております。動画などが見られる二次元コードは、両社ともにある工夫ですが、この実物大の写真は「東書」の特徴です。

これらの理由により、「東書」が最もふさわしいとして選定されました。

続いて、保健でございます。

6つの発行者のうち、選定委員会では「東書」を選定しております。

選定理由としましては、大きく2点ございますが、そのうち1点について説明させていただきます。

健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けた学習活動の工夫については各項目末に、学習内容に関連した情報を「資料」として掲載している。児童の命や健康を守るための情報を豊富に掲載することで、今日的な健康情報を充実させるとともに、学習内容をさらに広げたり深めたりすることができる。という点です。

実際の教科書で説明させていただきます。

「東書」の「新しい保健5・6」の8ページをご覧ください。

これは第1章「心の健康」の第1項「心の発達」の最終ページですが、このように各項目末に、学習内容に関連した情報を「資料」として掲載しています。ここでは、「人との関わり」として挙げられています。こういった情報を豊富に掲載されており、今日的な健康情報を充実させ、学習内容をさらに広げたり深めたりすることができるようにしてあります。

また、そのページの上にもありますが、学習後の振り返りを書く欄も充実しています。

これらの理由により、「東書」が最もふさわしいとして選定されました。

続いて、英語でございます。

6つの発行者のうち、選定委員会では「三省堂」を選定しております。

選定理由としましては、大きく3点ございますが、そのうち、2点について説明させていただきます。

1点目は、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る工夫として、「WANT TO」の表現に繰り返し触れることができるよう、第5学年では1単元、第6学年では3単元に設定されている。第5学年のLesson 7では、国名の英語の言い方を知り、伝え合う活動をした後に、書く活動を行う流れになっています。主語はIのみで、スモールステップで学ぶため、分かりやすい。という点です。

実際の教科書で説明させていただきます。

「三省堂」の「クラウンジュニア5」の96ページをご覧ください。「WANT TO」を用いて、行きたい国を伝え合う活動があります。聞くこと、話すことを行った後、行きたい国を尋ねるなどして、国名の英語の言い方を知り、伝え合う活動をした後に、書く活動を行っています。スモールステップで少しずつ積み上げ、テーマも分かりやすく、発表もしやすい流れとなっていて、基礎的・基本的な知識・技能を定着できると判断しました。主語も「I」のみとなっており、主語を「I」と「YOU」の2種類使ってやりとりをしている他社のいくつかの教科書よりも混乱しにくく、わかりやすいという点の特徴です。

2点目は、言語活動の充実についてです。

3つのUnitで構成されており、全てのUnitでHOP（Unitの見直し）、STEP（表現に出合う・慣れ親しむ・伝え合う）、JUMP（表現する）が設定されている。STEPがLessonの数によって複数設定されているため、学習の選択肢を広げることができるという点です。

この構成については、教科書4ページをご覧ください。

構成が分かりやすいように示されております。

なお、青色で示されている各Unit末のJUMPには、既習事項を活用するパフォーマンス課題が設定されています。さらにそこには、「JUMP Plus」というコーナーがあり、発展的なややレベルの高い学習が設定されていて、学習の選択肢を広げることができるようになっています。

これらの理由を総合的に判断した結果、「三省堂」が最もふさわしいとして選定されました。

続いて道徳でございます。

6つの発行者のうち、選定委員会では日本文教出版、「日文」を選定しております。選定理由としましては、大きく3点ございますが、そのうち、1点について説明させていただきます。3つ目の○をご覧ください。

考えを伝え合う活動の工夫として、巻頭「道徳の学び方」の「考える・深める」の中に、話し合いの具体的なポイント等について二次元コードや写真とともに示している。

また、別冊「道徳ノート」に友達の意見や話し合いの内容を記述する欄を設けており、言語活動の充実を図ることができるという点です。

実際の教科書で説明させていただきます。

教科書「生きる力 6」の96ページをお開きください。「ぐっと深める」の中で深い話し合いを促すつくりとなっております。こういったページが6年生の教科書では、5カ所設定されています。また、別冊「道徳ノート 6」の22ページをご覧ください。友達の意見や話し合いの内容を記述する欄も設けられており、伝え合う活動が重視されていることが感じられます。

道徳ノートがあることで、毎時間ワークシートなどを作成、印刷、ファイリングする必要がなく、これを手掛かりに学習を進めれば、教員の経験に関係なく、一定水準の授業を展開できるのではないかと考えます。

これらの理由により、「日文」が最もふさわしいとして選定されました。

以上、各種目の選定結果と選定理由について説明いたしました。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○ 教育長

説明が終わりました。

質疑はございませんか。

- 三島委員
前回の採択結果と異なる発行者のものはありますか。
- 学校教育課長
異なるものは、国語、書写、保健、英語が変わりました。
国語、書写が「光村」から「東書」へ、保健が「学研」から「東書」へ、英語が、「学図」から「三省堂」となっております。
- 小宇根委員
国語科ではこれまで「光村」を使用していたとのことですが、今回は「東書」へ発行者が変わるという説明がありました。
国語の場合、物語や説明文などの教材文も変わることから、大きな変更となると考えるが、選定委員会では、どのような意見が出されたのですか。
- 学校教育課長
選定委員会でも同様の意見はありました。それでも大きかった意見としましては、先ほども挙げさせていただきましたが、「読むこと」の単元と「書くこと」の単元を、小単元「情報のとびら」においてつなぎ、関連させて一体的に学ぶことができるようにしたという配列がよいというものでした。それぞれを一つ一つ学ぶのではなく、連動させて学ばせることで、「読み」で習得した言葉の力を「書く」で活用し、より効果的に学ばせることができる、その点が他の教科書との差異であり、特徴として優れているとの判断でした。
- 小宇根委員
江田島市教育委員会が経営方針として掲げているのは、「主体的・対話的で深い学び」である。さらにその実現に向けて、個別最適な学びと協働的な学びに取り組むとしている。このような視点から見ても、今回選定された教科書は最適であったのか。
- 学校教育課長
教科用図書の調査研究においては、「主体的に学習に取り組む工夫」という観点も設けて調査を行っております。例えば、国語科で言えば、付属資料である答申の1ページ目の国語の欄を見ていただきたいのですが、一番上の○が、その観点から見た特徴となります。
課題解決的な学習を実施するための工夫として、読むことを扱った第3学年の物語文において、単元はじめに、課題と学習の進め方を示し、単元末で課題について、学習の進め方の具体（ノート例、考えをつたえる例と学習で使う言葉の説明等）と、振り返る事柄を表記し、児童の主体的な学びを引き出す工夫をしているといった特徴が挙げられております。

ここでは、第3学年を例にしておりますが、お手元にある6年生の教科書にも同じような箇所があるので、ご確認いただければと思います。

126ページをお開きください。

物語文「模型のまち」を読む単元の導入のページがあります。物語文に入る前に、見開きで1ページを用いて、今回の物語文では何を目的に学習するのかという課題を提示するとともに、下段にありますように、学習の流れを説明し、見通しをもって学習に臨めるようにしております。これは東書の特徴の一つです

また、146ページをご覧ください。単元の終わりにも、どのように学習を進めていけばよいか、ノートの例や、読んで考えたことを伝え合うといった協働的な学びの例も示しております。

こういったページを活用することで、例えば、個別の自由進度学習などにも対応できるつくりとなっております。

このような点から、主体的・対話的で深い学びの実現にも適しているとの判断でした。

○ 長坂委員

英語ではこれまでの「学図」を使用していたが、今回は「三省堂」へ発行者が変わるという説明があったが、選定委員会では、どのような意見が出されましたか。

○ 学校教育課長

まず、英語の場合は、現在使用している「学図」の教科書が、令和6年度からは発行がなくなったということがあります。

そのうえで、6社からの選定となりました。

先ほども説明の中で挙げましたが、構成の工夫として、既習事項を活用するパフォーマンス課題が設定や、「JUMP Plus」という発展的なややレベルの高い学習が設定されていて、学習の選択肢を広げることができるようになっているという点が挙げられます。

その他にも、三省堂には、巻末には、ローマ字表（ヘボン式）とアルファベットと言葉のカードがあります。付録は、別冊として「CROWN Jr. My Dictionary」というのがあります。また、巻末には、「教室で使う英語」「会話を続ける工夫」や「英語でできること【CAN-DO】」が設けられ、5・6学年でどのようなことができるようになるかが示されています。

これは5学年・6学年の2学年連続で使用します。

学習指導要領において、「英語を初めて学習することに考慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いながら友達との関わりを大切にした体験的な言語活動を行うこと」と記述があります。体験的な言語活動を進めていく上で、単語を調べたり、発音を確認したりする必要があります。その際、児童が使いやすく、学習の補助となる資料や付録がある「三省堂」が指導に適しているとの意見がありました。

○ 小宇根委員

国語科が「東書」に変わったことで、書写も「東書」に変わったのか。もうひとつ、保健の方も変わったということで説明をお願いします。

○ 学校教育課長

国語科が変わったことによって書写も伴って変わったということではありません。それぞれに調査員がおり、調査員の報告を受けて、選定委員会によって判断されております。

書写の場合は、先ほども説明させていただきましたが、単元の配列が特に良いとして、選定されております。「書く時の動き」の内容では、1文字の点画のつながりを意識した後に、文字と文字もつながりがあることを学習できるようになっていて、さらには、その文字のつながりを生かして書く速さを場面によって変えていくことを学ぶ展開となっており、スモールステップで学習が進められるため、基礎・基本の定着につながるという特徴が評価されました。

保健に関しては、先ほども挙げさせていただいた学習内容に関連した情報を「資料」として掲載している点に加え、やはり先ほどの質問でもありました「主体的・対話的で深い学び」の実現という点からみても、学習の見通しを立てたり、振り返ったりする学習のための構成上の工夫として、学習のイメージとゴール（目標）を図示しており、児童が見通しをもって学習を進めやすいということが評価されております。

例えば、保健の教科書の20ページをお開きください。

ここでも見開き1ページを使って、何を目的に学習するのかという目標を提示するとともに、学習の流れを説明し、見通しをもって学習に臨めるようにしております。

選定委員会では、このような点が優れているという判断となりました。

○ 教育長

それでは、これで、本件の審議を終わります。

採決に移ります。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

(全員異議なし)

○ 教育長

全員異議なしと認めます。

よって本案は、原案のとおり可決されました。

○ 教育長

日程第4、議案第44号「令和6年度使用教科用図書（小・中学校特別支援学級）の採択について」を議題とします。

(非公開)

○ 教育長

日程第5，議案第45号「江田島市市民センター等設置及び管理条例の一部を改正する条例案について」を議題とします。

(非公開)

○ 教育長

日程第6，議案第46号「令和5年度江田島市一般会計補正予算（第4号）（教育委員会関係分）について」を議題とします。

(非公開)

○ 教育長

日程第7，承認第10号「教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免について」を議題とします。

(非公開)

○ 教育長

以上で，本日の会議に付された審議事項は，全て終了いたしました。

次回の教育委員会会議は，9月19日（火），午前10時00分から，教育委員会の会議室で予定しています。

他になければ，これで閉会します。

江田島市教育委員会会議規則の規定により，ここに署名する。

江田島市教育長

署 名 委 員